

文化学園服飾博物館だより

創刊 I 号
Nov. 1988

『服飾博物館だより』発刊にあたって

学校法人文化学園理事長
文化学園服飾博物館館長 大沼 淳

このたび、服飾博物館の活動を広く学園関係者に知っていただくために、『服飾博物館だより』を刊行いたしました。

早いもので、来年は服飾博物館も創設10周年を迎えようとしています。この間、ぼう大な数量の収蔵品の整理、写真撮影、台帳カードの作成に追われてきました。博物館資料の収集も、できるだけ史料価値かつ芸術的価値の高いものをと充分検討しつつ、たえずなされてきました。年数回の展示替えの際には、観覧者の学習に役立つように効果的に、かつ美しく楽しめる展示にするべく、努力をかさねております。

幸い、学園内外の服飾博物館に対する関心も次第に高まり、新聞・雑誌その他に取りあげられることも多くなり、入館者数も増えてきております。展示替えのたびごとに、クラスの学生を大勢引き連れて見学する先生方も多数います。学生にとって、学園で過ごす何年かの間たえず服飾のすぐれた実物資料にふれることが、将来の大きな財産になることはまちがいありません。

今後さらに、学園の教育の充実、教職員の研究の発展にとって、服飾博物館が今まで以上に役立つ存在となるためには、一体何をなしうかを模索することが重要な課題となっております。

国際交流の輪をひろげることも、服飾博物館が積極的に取り組んでいる課題のひとつです。ソビエト連邦の緊密な協力のもとに、10年もの長期にわたって毎年開催する『ソビエト連邦民族衣裳展』は、今年はシベリアのヤクート自治共和国(ヤクーチャ)を取りあげます。7月には、中華民国の国立歴史博物館において『アジア服飾展』が開催されましたが、日本関係の展示品はすべて服飾博物館の所蔵品によるものです。また、今秋の特別展『インドの服飾・染織展』においては、パリのアジア染織資料研究センターから一部資料をお借りし、国際的視野にもとづいた展示にしたいと思っております。

さらに近々4階の第4室が工芸関係の新しい展示室としてオープンいたします。これまで展示する機会の少なかった装身具や調度、生活を彩る工芸品を世界の各文化圏に分けて陳列いたします。現代のファッションの動向は、服飾の範囲にとどまらず、生活文化全体に深く関わってきております。歴史的な工芸品を見なおし、そこに現代に通用する新鮮な美を見いだすことによって、新たな創造への一助にいたしたいと願っております。

今後、服飾博物館が学園における文化の拠点のひとつとして、また日本を代表する服飾の専門博物館として大きく育っていくために、学園の教職員の皆様のご支援とご協力を切望する次第です。

博物館前館長 遠藤 武先生叙勲祝賀会開かれる



昭和62年度秋の叙勲に際し、文化学園服飾博物館前館長遠藤 武文化女子大学名誉教授は、勲四等旭日小綬章をお受けになりました。この輝かしいご栄誉とあわせて「遠藤 武著作集」全巻の刊行ならびに衣服功労賞などを記念して『遠藤 武先生叙勲祝賀会』が3月1日ホテルセンチュリーHYATT(新宿)にて開催されました。

「亜州服飾展」(アジア服飾展) 台北市(中華民国)で開催



このたび中華民国台北市、國立歴史博物館で「亜州服飾展」が7月2日から7月31日まで開催されました。

出品国は中華民国、日本、韓国。

日本からの展示品はすべて文化学園服飾博物館の所蔵品です。種類は小袖、武家の服飾、公家の服飾、能装束から構成した30点を展示。

「第2回 ソビエト連邦民族衣裳展」の開催



ソビエト連邦対外友好・文化交流団体連合会、エストニア、ラトビア、リトアニアの三つの共和国文化省、(財)北海道日ソ友好文化会館の協力のもとに『第2回 ソビエト連邦民族衣裳展』を昨年の12月11日から2月28日まで開催いたしました。

これを記念して初日に「リトアニアの民族衣裳と民族芸術」の講演会が行なわれました。講師はピヤトルシャヴィチュテ・ライマ・プロニスラヴォヴァ女史。

特別展「インドの服飾・染織展」 会期 9月26日(月)～11月26日(土)

A.E.D.T.A.(アジア染織資料研究センター、パリ)協力及び在日インド大使館後援により特別展「インドの服飾・染織展」を開催中です。

今回は展示図録を刊行いたしました。

●「インドの服飾・染織展」・A4版変形・80頁・カラー図版43頁

昭和62年度展示内容

昭62年			9月	
3月				
4	小袖・装身具 1920～30年代ドレス 3月16日～5月20日		10	ラッティとペーズリー展 9月30日～11月7日
5			11	
6			12	第2回ソビエト連邦民族衣裳展 12月11日～2月29日
7	61年度新収資料展 6月11日～9月9日		63年 1月	
8			2,3	館蔵品展 3月16日～5月28日

収蔵品館外貸出し

貸出先	展覧会名	期間	資料名	点数
文化服装学院資料室	郷土玩具	昭62 4.9～5.9	郷土玩具	346
たばこと塩の博物館	江戸のアクセサリー —袋物とたばこ入れ—	4.11～5.31	袋物、髪飾り	38
シルク博物館	レース展	4.25～5.25	レース	10
朝日新聞社	華麗なる装いの美展	4.24～5.6	小袖、振袖	3
堺市博物館	繻—小袖を彩る—	4.25～5.24	小袖	2
神戸市立博物館	神戸はじめ物語展	6.6～7.26	洋服、アクセサリー	4
古代オリエント博物館	中国歴代女性像展	7.11～8.31	清朝宮廷女性服	5
神戸市立博物館	明治のガラス展	10.9～11.29	袋物	2
世界織物会議	'87国際テキスタイル デザイン・フェア	11.6～11.12	西洋時代裂 貼合パネル	1



ようこそ博物館へ

中島源太郎文部大臣が、昨年の12月17日に専門学校視察の一環として文化学園を見学されました。歓迎の学生・職員に1人1人握手をされ、評判どおりのソフトな感じを実感されました。

服飾博物館にも見えられて、特別室秘蔵品の中国鳳冠、特別展示の正倉院裂、三井家伝来の小袖などを見てじきりに質問されました。

次回展示

「第3回 ソビエト連邦民族衣裳展」会期12月13日(火)～昭和64年2月18日(土)

今回は世界で最も寒い国、シベリアのヤクート自治共和国(ヤクーチャ)の民族衣裳をとりあげます。

1987年度新収資料から



小 袖（明治時代）

黒縮緬地に松と霞の模様を友禪に刺繍を加えて表している。明治時代の礼装用の振袖。



ドレス（1870年代）

茶の綾地に小花模様の刺繍と、水色、茶色の絹の縞模様で組み合わされた、バウンスル・スタイルのドレス。



絹織物（イタリア 16世紀末～17世紀初め）

キューピッドや女神などが左右相称形に配置された図柄で、幻想的な雰囲気をもつ紋織物。織法はブロカテルと呼ばれる。

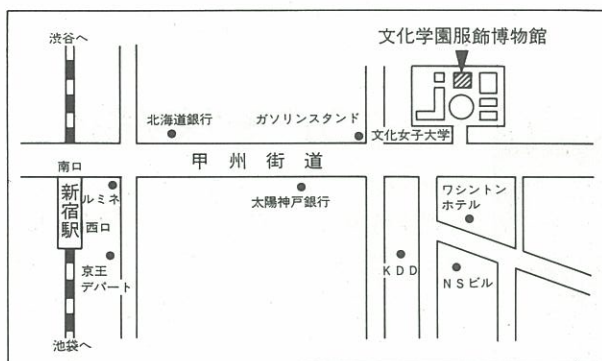
利 用 案 内

【入 館 料】

	個 人	団体(20人以上)
一 般	300円	200円
学 生	200円	150円

（特別展の料金は別に定める。）

【案 内 図・交通機関】



JR(山手線・中央線・総武線)、小田急線、京王線、地下鉄(丸の内線・都営新宿線)新宿駅南口(甲州街道口)下車、甲州街道に沿って調布方面へ徒歩8分

※駐車場はございませんのでご容赦下さい。

【開 館 時 間】

平 日…午前10時～午後4時30分

土曜日…午前10時～午後3時

（入館は閉館30分前まで）

【休 館 日】

日曜日・祝祭日

年末年始・夏季休暇

学園の創立記念日（6月23日）

展示替えの期間

電話番号が変わりました

文化学園では、電話交換設備を更新し、ダイヤルイン方式に変更になりました。

服飾博物館の電話番号はつぎのとおりです。

299-2387(受付) 299-2388(学芸室)

『文化学園服飾博物館だより』

発行所 文化学園服飾博物館

〒151 東京都渋谷区代々木3丁目22番1号